

道路建設業 GUIDANCE

やりがいが見つかる道しるべ



一般社団法人 日本道路建設業協会

4つの役割

「交通施設」「都市形成・防災空間」「収容空間」「環境保全」など、道路の果たす役割は大きく、道路は社会生活の基盤づくりに不可欠の存在となっています。このように、私たちの生活を支える重要な「道路」を造るのが道路建設業です。その仕事内容と、具体的な役割について紹介します。

私たちは常に「心に残る仕事」を心がけ、全力で取り組んでいます！

公共性が高く、やりがいのある仕事です！

決して派手さはありませんが、堅実な業界です。道路建設業の主体は、あくまでも生活基盤となる大小の道路工事が中心。そのため屋外労働の機会が多く、夜間工事も少なくはありません。身体を動かすことが大好きな皆さん 大歓迎！必ず仕事に“やりがい”を感じるはず。

また、企業によっては、海外に積極的に進出しています。途上国のライフライン整備に貢献することも夢ではありません。あなたの若さと情熱、やる気を試してください。



技術開発力が発揮できる仕事です！

当たり前のように利用している道路ですが、水はねのない舗装、音の静かな舗装、都市の温度を下げる舗装など道路には数多くの工夫や技術が詰まっています。こうした技術開発にも積極的に取り組んでいます。



水はねのない舗装（排水性舗装）
雨天時の車両の走行安全性の確保や、車両から発生する騒音を低減させる舗装です。



情報化施工
情報通信技術を活用して、より安全に、より省力で、より効率的に精度の高い機械施工を行うシステムです。

災害復旧や震災復興に大きく貢献する仕事です！

東日本大震災での被災地や原発事故対応で、最初に復旧させたのは「道路」でした。仙台空港は、東日本大震災の津波襲来で壊滅的な打撃を受けました。しかし、震災の翌日には復旧作業を開始。救援物資を空路で運び込むため、連日数百名に及ぶ作業員を動員し、滑走路やヘリポートの復旧作業にあたりました。その結果、1カ月後には限定的な規模での運航を再開。復興の大きな牽引となりました。社会貢献が私たちの大きな“誇り”です。

仙台空港B滑走路 施工前

施工後

社会生活の基盤づくりに不可欠の職種です。 ～道路の果たす4つの役割～

交通施設



自動車・自転車・歩行者の交通網として、また生活物資などの輸送路としての役割を果たします。

都市形成



都市全体の骨格を形成し、市街地や都市発展の一翼を担います。また、災害時の避難路や火災時の延焼防止などの必要な空間となります。

収容空間



電気やガス、水道、下水道、電話線などのライフラインを収容。さらに、地下鉄などの交通機関が通行する空間としての役割を担います。

環境保全



散歩やサイクリングなどのレクリエーション空間として、また、街路樹などによる都市景観を形成します。

一般論として、道路建設業は学生や若年労働者に敬遠されています。しかし、それらを上回る公共性や仕事の魅力、やりがいなどを得ることができます。道路建設業の素朴な疑問に対して、ズバリ先輩が本音で答えます。

Q.1 道路建設業はきつい仕事を行うイメージが強いのですが？



どんな仕事でも、実際に経験しないと理解できないことがあります。確かに、私たちの仕事は屋外での作業が多く、天候や現場周辺の交通事情など、制約を受けながら仕事をしているため、仕事の進み具合によっては残業や休日出勤をする必要があります。しかし、こうした状況に関しては、ノー残業デーの推進、代休の取得、閑散期・現場異動時の連続休暇の取得などを通じて、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現を目指し、労働時間の削減を進めています。道路建設業でのモノ造りで経験できる達成感、充実感は非常に大きなものです。イメージに惑わされることなく、私たちの仕事の本質を見てもらいたいと思います。



Q.2 現場での施工管理というのは、どのようなことをするのでしょうか？

施工管理は、一言でいえば、建設現場の監督ですが、安全・品質・工程管理および検査書類の作成まで、その仕事内容は非常に幅広いものです。具体的には、施工前の段取りから協力会社の選定や資材の発注、施工中の機械・作業員の手配から作業工程や予算の管理、作業員や近隣住民の安全対策、施工後の報告書類の作成などです。

また、多くのスタッフとコミュニケーションを取りながら、現場を円滑に進めていく必要がありますし、臨機応変な対応が常に求められます。様々な職種の人たちと創り上げる喜びとともに、予算・実算、工程、品質、安全などを管理する責任感・やりがいがあります。



Q.3 道路建設業に未来はあるのでしょうか？



道路建設業界では、東日本大震災の復興事業や防災・減災を柱とした国土強靱化、東京五輪開催に向けた施設整備、国際競争力強化のためのインフラ整備などにより、ここ数年は底堅い需要が見込まれます。さらに、高度経済成長期に造られた社会インフラの高齢化・老齢化に伴う大改修時代を迎えているため、道路整備、維持管理・更新を進めて、これまでと同様に“便利に、快適に利用していく”ために、私たち道路建設業が果たす役割は非常に大きなものとなっています。



Q.4 道路以外の仕事も行っていますか？



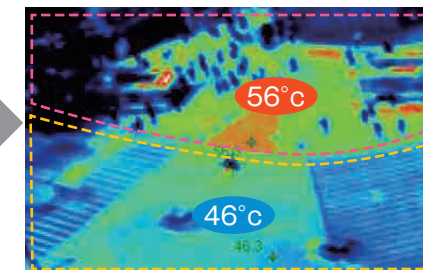
道路や空港などの舗装だけでなく、工場やショッピングモールの駐車場や景観整備、上下水道、公園や陸上競技場などのスポーツ施設など、扱う領域は多種多様で、インフラ整備はもちろんのこと、より良い生活環境の提供も行っています。



Q.5 より良い道、街、環境づくりに貢献する技術はあるのですか？



地球温暖化防止や都市のヒートアイランド現象の抑制など、環境保全・改善を目指す技術、生物自生環境を整える技術、地域社会に快適な暮らしを提供する技術、景観や美観に配慮した技術、高齢者や生活弱者にやさしい技術など、地域のニーズに応え、時代を先取りする技術や商品の開発に力を注いでいます。また、古い道路のアスファルトやコンクリートをほぼ100%再生利用して、自然環境に配慮するなど、意外とエコで優しい業界なのです。



赤外線カメラによるサーモグラフィ画像

--- アスファルト舗装 --- 遮熱性舗装

遮熱性舗装

舗装表面に遮熱性材料を塗布／充填した舗装。遮熱性材料が赤外線を反射するため、一般のアスファルト舗装に比べて夏の路面温度を10℃以上低減でき、ヒートアイランド対策に有効。



舗装技術について、もっと詳しく知りたい方は、
<http://www.dohkenkyo.com/techno/>
をご覧ください。



特別アンケート 道路建設業の魅力について語ろう!

道路建設業の“仕事の魅力”について、入社2年～6年の若い先輩社員から「道路建設業界を選んだ動機」「入社直後の職場環境に対する感想と現在の心境」「仕事の魅力とやりがい」「これまで最も印象に残った仕事」「今後の抱負」などについて語っていただきました。

道路建設業界を選んだ動機(理由)は?

小学生のとき、阪神淡路大震災を目の当たりにして、「地震に強い舗装」を造りたい思いで、この業界に入りました。優れた技術力による震災復旧の早急な対応など、社会基盤整備づくりに貢献していきたいですね。
(研究・開発)

インフラ整備に興味を抱き、土木工学を専攻。近年のアスファルト舗装は、実は排水・保水性舗装など様々な機能を有していることに驚き、舗装技術に魅了されて道路業界を志望しました。メンテナンスを含め、重要な職務だと思います。
(品質管理)

社会貢献性の高さと、自分たちが造った道路が成果として残ることが道路建設業界を選んだ最大の理由です。就職活動を通じて、ゼネコンよりも“若い時期から現場を任される”ことを知り、そこにも魅力を感じて飛び込みました。
(施工管理)



入社直後の職場環境に対する感想と現在の心境について

入社直後は現場の緊張感ある雰囲気に圧倒され、この先も動めていけるか不安になりました。現在は機械の改良や開発、IT機器を駆使した情報化施工など、様々な分野で仕事をしており大変充実しています。
(機械)



入社後、合材工場の品質管理に配属。上司から“道路に使用する合材の種類や施工の検査試験など”を学び、よりいっそう興味を抱きました。現在は、どうやればステップアップできるかが見えてきて楽しいです。
(品質管理)

仕事の魅力とやりがいについて

事務社員は、建設会社では縁の下の力持ち的存在です。そんな中、周囲の方々が働きやすいように考えて行動し、「ありがとう」と感謝されると、これからも頑張ろうと意欲がわいてきます。
(事務)



何もなかった土地に新たな道を作ることは、その地域を活性化させる始まりであると思います。地図の上に新たな道を載せるだけでなく、地図に新たな都市を載せる第一歩であると考えたら、素敵な仕事ではないでしょうか?
(施工管理)

これまで最も印象に残った仕事は?

工程が厳しい現場で、絶対に開通に間に合わせるという思いで、率先して先輩・後輩関係なく打ち合わせや現場を進めて、工期を守り切ったこと。先輩に怒鳴ったことも…。
(施工管理)



東日本大震災の発生後、高速道路の復旧工事に従事しました。厳しい状況下で、職員が一致団結し、復旧工事に取り組む姿を見て、少しでも社会に貢献できていると実感することができました。
(機械)



今後の抱負について

会社から見て「必要な存在」になることが私の目標です。現状に満足することなく、常に上を目指し、支店を任されるような人材に成長したいと思います。共に道路建設業界を支えていきましょう。
(事務)



周囲の人に頼られる技術者となり、自分の開発した技術が採用されることを目標にしています。やりがいや達成感などを求めている人にはお勧めの職種です。ぜひ一緒に働きましょう!
(研究・開発)



将来、結婚して子供ができて“仕事を続けられる環境”を、自分たちでつくりあげたいと思います。女性には働きやすい環境とはいえませんが、女性だからこそできる発想があります。臆せず頑張ります。
(品質管理)



明日の地域社会創造のために、共に汗を流してみませんか？

道路建設業の魅力に惹かれた先輩からのメッセージです。

道路のつながりは人とのつながり、人に喜ばれる道路づくりを

林 大喜（土木工学専攻、2010年入社）

道路工事を施工していていちばん感じることは、人とのつながりです。自分たちの造った道路をさまざまな人が、いろいろな目的で利用しています。その人たちを見るたびに、とてもやりがいがある仕事だなと感じます。また、工事施工中に周りの住民の方から、「いつもご苦労さま」「いつも大変な仕事をありがとうございます」という言葉をかけていただいたときは、本当にこの仕事を選んで良かったなと思います。これからも多くの人に喜んでもらえるような道路を造っていききたいと思います。

《キミへのメッセージ》

楽しいときもあれば辛いときもあるのが、この仕事の良いところです。苦労して造った道路を見たときの達成感や社会生活への貢献度は、どの仕事にも負けなと思います。



“女子力”で情報化施工の普及を目指します



三谷 愛（環境システム工学科、2009年入社）

情報化施工が主な役割で、生産機械第二グループに所属し、現場支援、設計業務を行っています。高速道路やテストコース、スポーツ施設など、さまざまな現場を体験・勉強しながら知識を増やすとともに、まだまだ女性が少ないこの業界で、「なでしこエンジニアの会」を結成して、仲間を増やしていこうと奮闘中です。

《キミへのメッセージ》

現場関係者の皆さんと共に汗を流し、現場が徐々にできあがっていく様子は、その場に立って作業している人たちにしかわかりません。大変なことも多いのですが、完成したときの感動は思わず涙するかもしれませんよ？ ぜひ、自分の目で見て、体験してください。

幅広い知識と経験で、道路づくりをサポートしています

中西 規之（経営学科、2012年入社）

工事の拠点となる事務所で、最前線で働く社員のサポートを行っています。多種多様な書類の作成が主な日常業務ですが、そのほかにも事務職にしかできない仕事が多々あります。これらの仕事を遅滞なく、的確に処理するためには広範囲な知識と経験が求められます。業務を円滑に進められることを目標に、日々勉強をしているところです。

《キミへのメッセージ》

「道路を造る会社」に事務として入社する。イメージしづらいかと思いますが、非常にやりがいのある仕事です。数ある業種の中から道路業界を選択して、道路を造る仲間になりませんか。



一般社団法人 日本道路建設業協会

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-5-1 東京建設会館
TEL 03-3537-3056 FAX 03-3537-3058
<http://www.dohkenkyo.or.jp/>
E-mail jrca@dohkenkyo.or.jp



《日本道路建設業協会の会員企業を知りたい方は》

<http://www.dohkenkyo.com/jrca/kaiin.htm>



本冊子は、一般社団法人 日本道路建設業協会が道路建設業を目指す学生や生徒向けの支援ツールとして作成したものです。

* 本パンフレットをご覧になってお気づきの点やご意見、ご感想があれば、お電話、FAX、メールなどで日本道路建設業協会までお寄せください。

* 本パンフレットをご覧になって道路建設業に興味を抱かれた方は、それぞれの会員企業に直接お問い合わせください。